

顎関節症

患者様情報

来院されるまでの症状

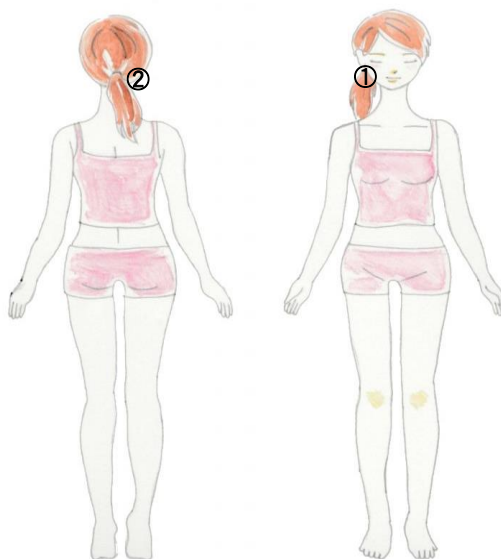
- ・お孫さんのお世話をする機会が増え、ストレスを感じるようになったそうです。
- ・ストレスのせいか身体に力が入り、気が付くと食いしばりが多くなり右の顎に激痛がはしるようになり、指1本分しか口が開かなくなっていたそうです。
- ・慢性胃炎も併発。妹さんの紹介でご来院されました。

患 者 様	70 代
初 診	2020 年 3 月
既 往 症	右の顎関節症
他 の 症 状	慢性胃炎、首こり、肩こり、自律神経失調症

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・首、肩の筋緊張が強く、そのことが原因で顎関節症を引き起こしていることがわかりました。
- ・表情も痛みで硬く眉間にしわがきつく刻まれていました。
- ・更に触診をしてみると右腰、右臀部の筋緊張も強く、下肢の血行不良も引き起こしていました。年中足先は温まることがなく寝付きもよくないそうです。
- ・施術は鼠径部のツボを何点かとり右腰、右臀部を緩めるような鍼を施し、下肢の血流を良くしました。
- ・次に完骨から痛みが出ている顎に向け鍼をゆっくりと刺入して緩めていきました。最後に痛みが出ている下関に鍼を刺し口を開けて、顎関節の可動域が広がるように施しました。



■ 初診後の経過

- ・施術が終わる頃には、顎の痛みは残っていましたが、口を開けた際は2本は余裕をもって入るようになっていました。
- ・初診後はまだ痛みがあったので1週間に1回治療を継続。その後は疲れた時にご来院するようになり、以前のような痛みはないようです。

使用した主要なツボ

*①下関（ゲカン） ②完骨（カンコツ）

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・患者様の体質によっては身体に力が入りやすく、様々な不調を訴えるケースがあります。今回のような顎関節症で開口動作が難しい症例は鍼灸治療の得意分野になります。首こり、肩こりから顎関節症になっている場合は鍼灸治療がおすすめです。